



2026年3月13日

各 位

会 社 名 株式会社FUNDINNO
代 表 者 名 代表取締役CEO 柴原 祐喜
(コード番号：462A 東証グロース市場)
問 合 せ 先 執行役員コーポレート本部長 高木 崇
(TEL：050-3644-4388)

2026年10月期 第1四半期決算説明資料（書き起こし）公開に関するお知らせ

当社は、2026年3月13日、2026年10月期 第1四半期決算説明会を動画配信という形で公表いたしました。当該説明内容について、株主ならびに投資家の皆様への公平な情報開示の観点から、決算説明資料（書き起こし）として公開することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2026年10月期 第1四半期決算説明資料（書き起こし）の概要

当資料は、本日公開しました2026年10月期 第1四半期決算説明会の中で説明を行いました内容を書き起こし資料としてまとめ、その内容を共有するものであります。

ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております点、ご容赦ください。

2. 参考情報

決算説明動画 URL を以下に掲載しておりますので、併せてご確認くださいませようお願い申し上げます。

【2026年10月期 第1四半期決算説明会】

1. 公開日時：2026年3月13日（金） 15:30～
2. 説明者：代表取締役CEO 柴原 祐喜

■決算説明会動画はこちらからご確認くださいませ

2026年10月期 第1四半期決算説明会

<https://irtv.jp/channel/22580>

■本件に関するお問い合わせ先：

株式会社FUNDINNO IR担当

TEL：050-3644-4388 E-Mail：info@fundinno.com

以 上



2026年10月期 第1四半期決算説明資料

株式会社FUNDINNO | 2026年3月

FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

株式会社FUNDINNO 代表取締役 CEO の柴原でございます。

これより、2026年10月期 第1四半期決算について、ご説明いたします。

未上場企業のリスクマネーの循環を DXプラットフォームにより実現する イノベティブなビジネスモデル

当社は、未上場株式市場において、
テックタッチを基盤に、証券・印刷・信託・取引所の機能を統合した
次世代型金融プラットフォームを構築しております。



さて、まず前提として、
私たちは、未上場株式市場において、テックタッチを基盤に、
証券・印刷・信託・取引所の各機能を統合した、
次世代型金融プラットフォームを構築しております。

次世代産業を担うスタートアップに
継続的なリスクマネーを供給できる仕組みの整備は、
日本経済の成長と、国際競争力強化の鍵となります。

スタートアップ企業への「リスクマネー供給量」の増加、
投資家と未上場企業との間の「情報対称性」の確保、
未上場株式の「流動性促進」など、
未上場株式市場を取り巻く課題の解決と、
市場の拡大に取り組んでいます。

我々は、未整備の未上場株式市場において、
テクノロジーの力で、ゼロからリスクマネーの循環を生み出す
仕組みの構築に取り組んでまいりました。

ワンプラットフォームで資金供給のみならず、その後の成長、
多様な Exit に繋げるべく、日々機能拡張を続けております。



FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

3

まずは、2026年10月期 第1四半期の事業トピックです。

まず、当社支援先のイノバセル株式会社が、
2月24日、東京証券取引所 グロース市場に上場しました。

こちらは、2022年に新設された
「特定投資家向け銘柄制度 (J-Ships)」を利用した企業として、
「日本初の東証上場 事例」となります。

当社プラットフォームの存在が、
企業の成長加速と、IPO という出口戦略に直結することを証明する
重要なマイルストーンであると考えております。

続いて、2026年10月期 第1四半期においても
「FUNDINNO」を展開する ECF 領域、
「FUNDINNO PLUS+」を展開する J-Ships 領域において
業界トップシェアのポジションを確立しております。

最後に、当社プラットフォームにおける「流通取引総額 (GMV)」が、
創業時からの累計で、300億円を突破いたしました。

これら3点は、
未整備であった未上場株式市場における仕組み構築の
ひとつの成果であると捉えるとともに、
今後も成長ペースを加速すべく、施策に邁進してまいります。

「FUNDINNO PLUS+」での資金調達から14か月で上場。
発行会社のIPOによる信用力向上を追い風とした新規リード獲得の加速、特定投資家の再投資に繋げる。

発行会社 **イノバセル株式会社**



代表取締役 Co-CEO
ノビック・コーリンさま
代表取締役 Co-CEO
シーガー・ジェイソンさま

会社概要（イノバセル株式会社について）

当社は自らのビジネスモデルを「再生医療・細胞治療グローバルアグリゲーションモデル」と称しております。このモデルでは、専門的な知識、経験、人的ネットワークを活かし、有望な再生医療・細胞治療の候補をグローバルに見つけ出します。それらの候補に必要な経営資源及び事業インフラをグローバルに調達・開発し、それぞれの研究開発パイプラインに最適なビジネスモデルを構築してグローバルに商業化していくことで、自社の収益ポートフォリオを構築・拡充するという事業モデルです。現在、便失禁および尿失禁といった失禁領域を対象とした、3つの自家細胞治療パイプラインの開発と商業化に取り組んでいます。



FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

4

2月24日に上場いたしましたイノバセル株式会社は、
2024年12月に当社プラットフォームで、約10.6億円の調達に成功いたしました。

調達時の発行価格は850円、公開価格は1,350円、初値は1,248円となりました。
なお、当社プラットフォームで投資を行った83名には、制度ロックアップが課されています。

長期保有方針の投資家様も多く存在するものの、
今後、キャピタルゲインを得た投資家様の当社案件への再投資が期待されます。

2026年10月期 第1四半期決算	実績	前年同期比 減収減益	営業収益 410 百万円 (前年同四半期比※ ▲169百万円)	営業利益 ▲181 百万円 (前年同四半期比※ ▲208百万円)
	要因	<ul style="list-style-type: none"> 大型資金調達支援を行う「FUNDINNO PLUS+」は、案件規模や開示タイミング、募集期間などにより四半期単位の業績に一定のボラティリティ（変動）が生じる。 当社は発行会社および投資家のニーズ、プロジェクト収益が最大化できるタイミングを鑑み実行しており、その結果、当第一四半期においては大型案件の計上が後続四半期へシフト。 一方で、上場後の非連続な成長に向けた「仕込み」の取り組みとして、全社リソースを成長戦略に掲げた事業基盤構築へ戦略的に投入。その結果、「投資ポテンシャルの拡大」や「取扱商品の拡充」において、当初想定を上回る進展を実現。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 10億円超の大型資金調達実績 25年10月期 1Q：2件 / 26年10月期 1Q：0件 		
成長戦略の進捗	トピック	投資ポテンシャルの拡大	<ul style="list-style-type: none"> イノバセル社：東証グロース市場 上場 当社及び発行会社の上場による信用力向上を追い風とした新規リード獲得の加速 キャピタルゲインを得た特定投資家の当社プラットフォームでの再投資に繋げる 業界連携強化 法人投資家出資促進のための新しいスキームでの実績（見込：当2Q） 	
		取扱商品の増加	<ul style="list-style-type: none"> 「FUNDINNO MARKET PLUS+」の大口取引実現（見込：当2Q） 	

FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

5

続いて、2026年10月期 第1四半期決算の概要をお示ししております。

- ・営業収益 4億1,000万円
 - ・営業利益 マイナス1億8,100万円
- と、前年同期比 減収減益となりました。

大型資金調達支援を行う「FUNDINNO PLUS+」は、開示や成約時期、案件規模、手数料率などによって四半期業績が大きく左右されます。

過去の案件推移は後段ご説明いたしますが
当第1四半期は、10億円以上の大型案件が不足いたしました。

背景といたしましては
発行会社様および特定投資家様のニーズ、プロジェクト収益が最大化できるタイミングを鑑み開示を実行しており、その結果、当第1四半期においては、大型案件の計上が後続四半期へシフトいたしました。

一方、上場後の非連続な成長に向けた「仕込み」の取り組みとして、全社リソースを成長戦略に掲げた事業基盤構築へ戦略的に投入した結果、「投資ポテンシャルの拡大」や「取扱商品の拡充」において、当初想定を上回る進展を実現しております。

「投資ポテンシャル拡大」に繋がる業界連携が進んだほか、法人投資家様の出資促進のための新しいスキームが当第2四半期に実績として計上できる見通しです。

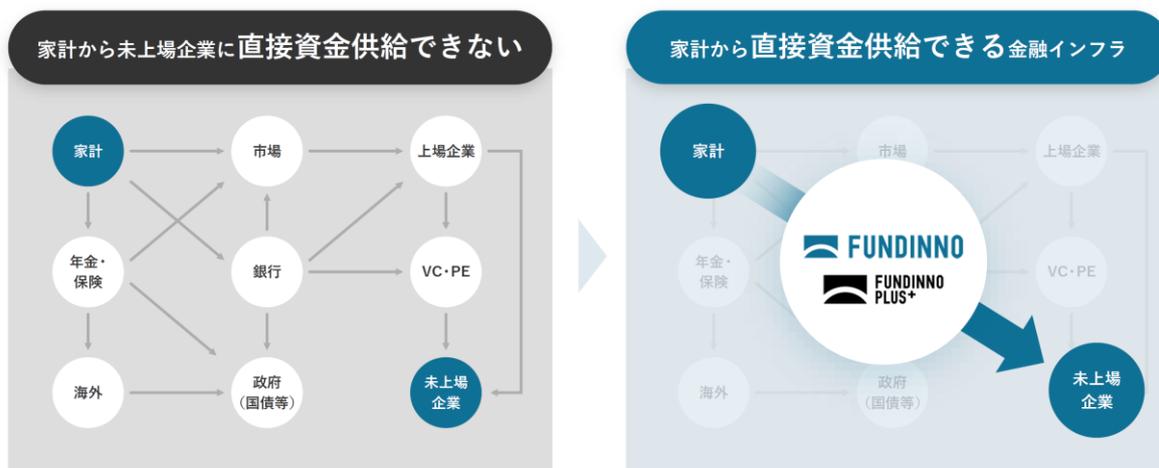
また、「取扱商品増加」の側面でも、同じく、当第2四半期に「FUNDINNO MARKET PLUS+」において大口取引の実現が見えてきております。



- 01 **ビジネスモデル**
- 02 主要KPI
- 03 2026年10月期 第1四半期業績
- 04 成長戦略の進捗
- 05 APPENDIX

では、改めてではございますが、
当社のビジネスモデルについて、簡単にご説明いたします。

家計等の金融資産を未上場企業への成長資金として直接供給できる、新たな金融インフラを構築。

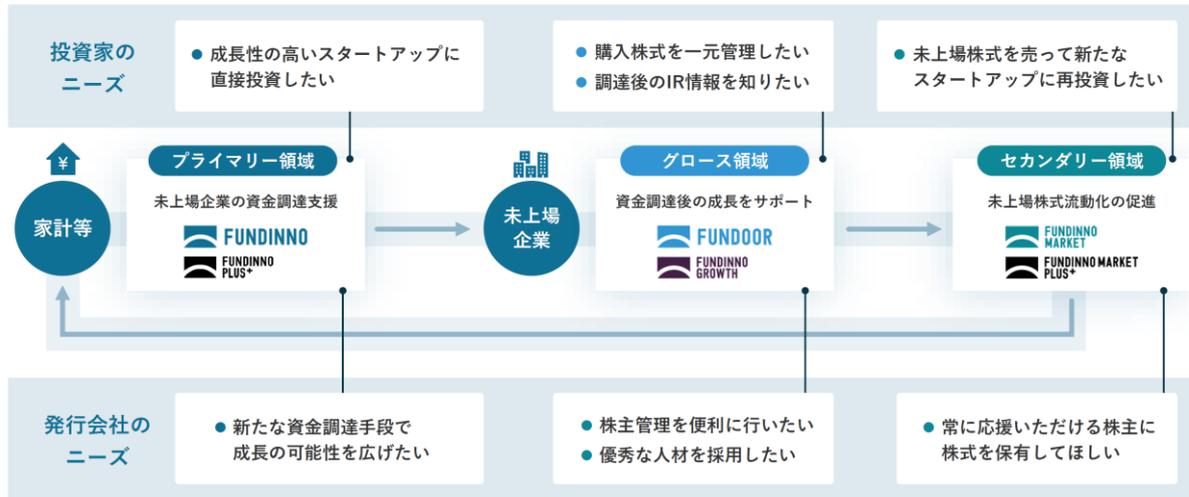


創業時に着目した点は、国内のリスクマネー供給構造です。

当社が存在する前のリスクマネー供給構造は、
家計から複雑なルートを通して、
未上場企業へリスクマネーが供給されておりました。

この構造に対し、当社はテクノロジー主導による改革を実現し、
家計から直接、未上場企業へリスクマネーを供給できる仕組みの構築を
実現いたしました。

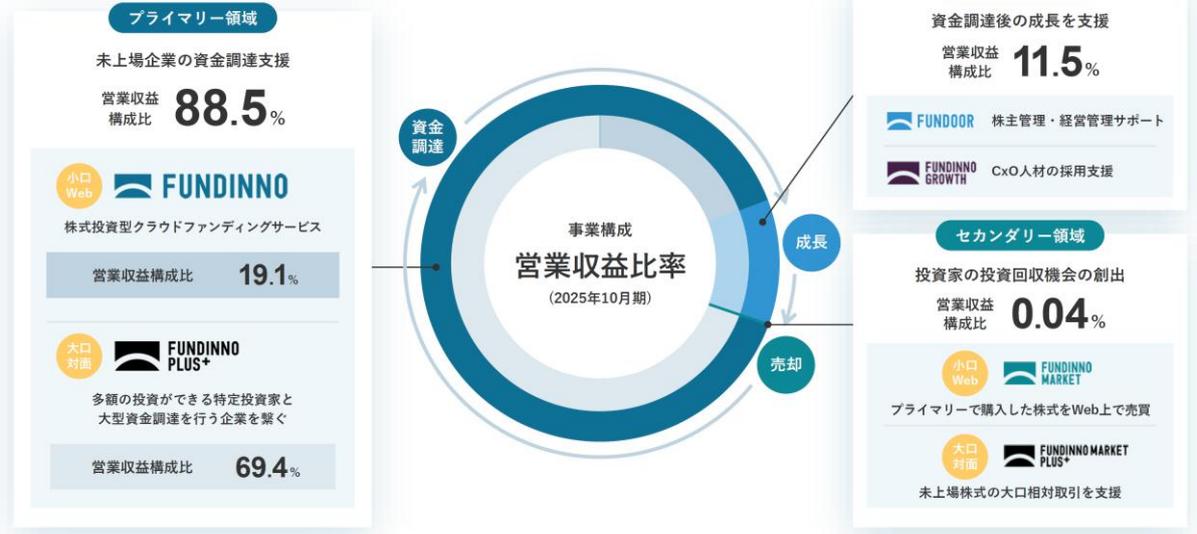
未上場株式を「買って、管理できて、売れる」リスクマネーの循環を実現する3領域を展開。



具体的に投資家様目線で申し上げますと、未上場株式を買って、管理できて、売れて、というリスクマネーの循環サイクルを意識し、事業を展開しております。

なお、当社グループは、「未上場企業 エクイティプラットフォーム事業」の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしていません。

大口資金調達可能な「FUNDINNO PLUS+」が業績を牽引。



FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

昨期 25 年 10 月期の営業収益比率です。

当社は1つのセグメントにおいて、プライマリー・グロース・セカンダリーの3領域を展開しており

プライマリー領域において、

- ・小口かつオンライン販売が「FUNDINNO」
- ・大口かつ対面販売が「FUNDINNO PLUS+」

セカンダリー領域において

- ・小口かつオンライン販売が「FUNDINNO MARKET」
- ・大口かつ対面販売が「FUNDINNO MARKET PLUS+」

というように、大口のサービスに PLUS がついております。

26 年 10 月期においても、比率は大きく変わらず、

「FUNDINNO PLUS+」に注力し、事業拡大に努めております。

2015年 オンライン上での未上場株式販売が可能になり、当社は「FUNDINNO」を展開。
2022年 規制緩和で大型資金調達も可能になり、「FUNDINNO PLUS+」を新たに展開。

		 第一種少額電子募集取扱業務	 第一種金融商品取引業/J-Ships
調達 企業	ステージ	アーリー・ミドル企業	レイト企業
	調達金額	1億円未満	上限なし
	組織	監査未設置も可	監査設置・証券会社決定
	最大調達金額	9,999万円	18.2億円
投資家	勧誘方法	クラウドファンディング型でマッチング	対面・オンラインで個別紹介
	対象	一般投資家	×
		特定投資家	○
	同一企業への年間投資額	1~50万円(一般投資家) 上限なし(特定投資家)	上限なし(特定投資家)
	手数料	なし	なし

FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

10

「FUNDINNO」は、第一種少額電子募集取扱業務、
形態としては公募増資です。
公募増資には、本来、有価証券届出書の提出等が必要ですが、
この第一種少額電子募集取扱業務の枠組みの中では、
「有価証券届出書の提出」や、「監査設置義務」が緩和されています。

一方、レギュレーションがあり、

- ・1社が1年間で資金調達できる額は1億円未満、
- ・1人の投資家様が1社に対して年間投資できる額も50万円に制限されています。

一方、「FUNDINNO PLUS+」は、
保有資産や投資経験などの基準をクリアした特定投資家様のみを
レイト企業とマッチングしております。

こちらは、第一種金融商品取引業の登録と、
「J-Ships」の登録を受けて事業を展開しています。

「FUNDINNO PLUS+」は特定投資家様に限りですが、投資上限がございません。
また、1社あたりの資金調達上限もございません。

最大資金調達額は

- ・「FUNDINNO」で9,999万円
- ・「FUNDINNO PLUS+」で18.2億円

の実績が出ております。



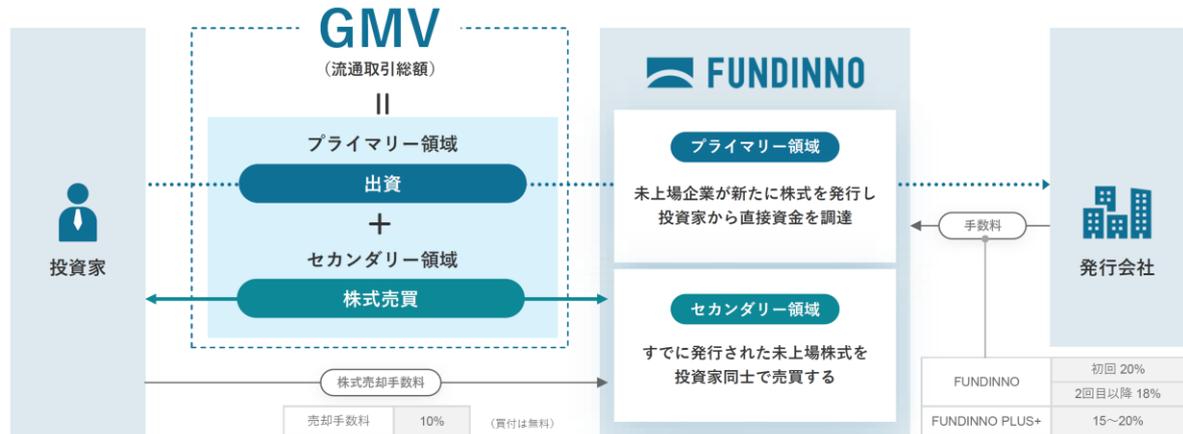
- 01 ビジネスモデル
- 02 **主要KPI**
- 03 2026年10月期 第1四半期業績
- 04 成長戦略の進捗
- 05 APPENDIX

続いて、当社の主要 KPI の進捗状況です。

主要KPI | GMV (流通取引総額) とは

当社プラットフォームを通じた取引の総和 (=GMV) の拡大に今期注力。

$$\text{GMV (流通取引総額)} = \text{プライマリー領域 (出資額)} + \text{セカンダリー領域 (株式売買額)}$$



FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

※GMVは取引の規模を示す指標であり、FUNDINNOの営業収益そのものではない

12

中期的な成長方針として、
「GMV (流通取引総額)」の拡大を目指しております。

当社プラットフォーム上での売買額の総和であり、
GMV が、営業収益の拡大に直結する指標であると考えております。

主要KPI | GMVの半期推移

案件の成約時期や規模により、四半期GMVには一定のボラティリティが生じるものの、10億円超の資金調達には、24年10月期の1件に対し、25年10月期は5件と、着実に案件大型化を実現。発行会社の状況、プロジェクト収益が最大化できるタイミングを狙い、計画達成に向け進捗。



FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

GMVの半期推移とともに、

- ・ 5億円～10億円未満の中型案件数
- ・ 10億円超の大型案件数

を示しております。

冒頭でご説明いたしました通り、

調達規模が大きくなるほど、

四半期ごとの営業収益には一定のボラティリティが生じます。

一方、24年10月期は10億円超の大型案件が1件なのに対し、

25年10月期は計5件の調達に成功いたしました。

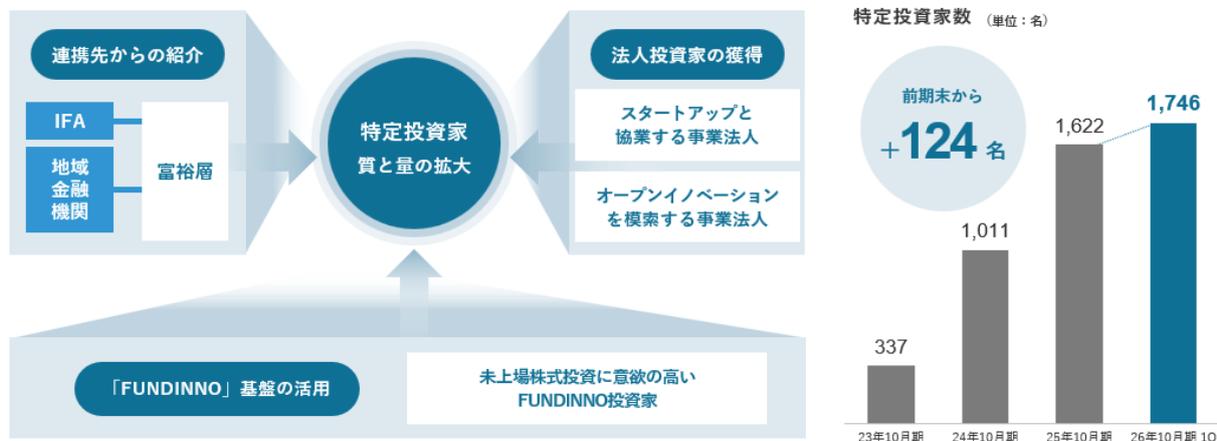
26年10月期 第1四半期においては0件ですが、

投資ポテンシャルは特定投資家数増加により拡大しておりますので

次のスライドでご説明いたします。

主要KPI | 特定投資家数の推移

GMVの拡大を支えるのは「FUNDINNO PLUS+」の特定投資家の増加で、前期末から124名増加。純金融資産保有額5億円以上の超富裕層（11.8万世帯[※]）をターゲットに更なる積み上げを図るべく、「FUNDINNO」基盤に加え、地方銀行や証券会社、IFAとの連携を強化。



FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

※野村総合研究所「野村総合研究所、日本の富裕層・超富裕層は合計約165万世帯、その純金融資産の総額は約469兆円と推計」より（2025年2月13日掲載）

14

大型資金調達が可能で「FUNDINNO PLUS+」においては、特定投資家様のみが投資を行うことができます。

よって、資金調達の成功の蓋然性を高め、GMVの更なる拡大を図るためには、特定投資家数の積み上げが必要です。

特定投資家数は1,746名と、3ヵ月で124名増加いたしました。

「FUNDINNO」の基盤を活かした拡大に加え、新たな注力ポイントとして、

- ・ IFA や地方銀行などとのアライアンス
- ・ 法人投資家様の獲得

などによる「営業チャネルの強化」を続けております。

当社及び発行会社様の IPO による信用力向上を追い風に引き続き、重要KPIとして位置づけ、拡大に注力してまいります。

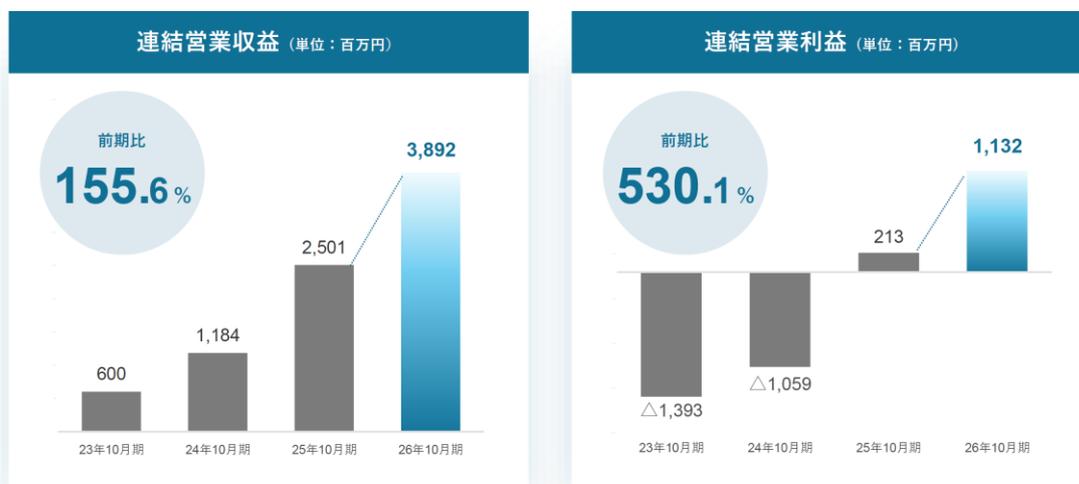


- 01 ビジネスモデル
- 02 主要KPI
- 03 **2026年10月期 第1四半期業績**
- 04 成長戦略の進捗
- 05 APPENDIX

それでは、26年10月期 第1四半期の業績について、ご説明してまいります。

2026年10月期 業績予想

大型資金調達を行う「FUNDINNO PLUS+」の拡大により、
営業収益 3,892百万円（前期比 55.6%増）、営業利益 1,132百万円（前期比 430.1%増）を計画。



FUNDINNO | ©2026 FUNDINNO, Inc

16

2026年10月期は

- ・営業収益 前期比 155.6%の 38.9 億円
 - ・営業利益 前期比 530.1%の 11.3 億円
- を計画しております。

2026年10月期 第1四半期業績

「FUNDNINNO PLUS+」の大型案件（10億円超）が前年同期比マイナス2件で、減収減益。

(単位：百万円)	2025年10月期（1Q）	2026年10月期（1Q）	業績予想
営業収益	579	410	3,892
金融費用	0	0	0
原価	65	59	254
純営業収益	513	350	3,637
純営業収益率	88.7%	85.5%	93.5%
販管費	486	532	2,504
営業利益	27	△181	1,132
営業利益率	4.7%	-	29.1%
経常利益	28	△189	1,131
親会社株主に帰属する四半期純利益	27	△197	1,147

※ 2025年10月期第1四半期は監査レビューを受けておらず、当社集計値を掲載

当第1四半期は、大型案件の不足により、

- ・営業収益 4億1,000万円
- ・営業利益 マイナス1億8,100万円

と減収減益となりました。

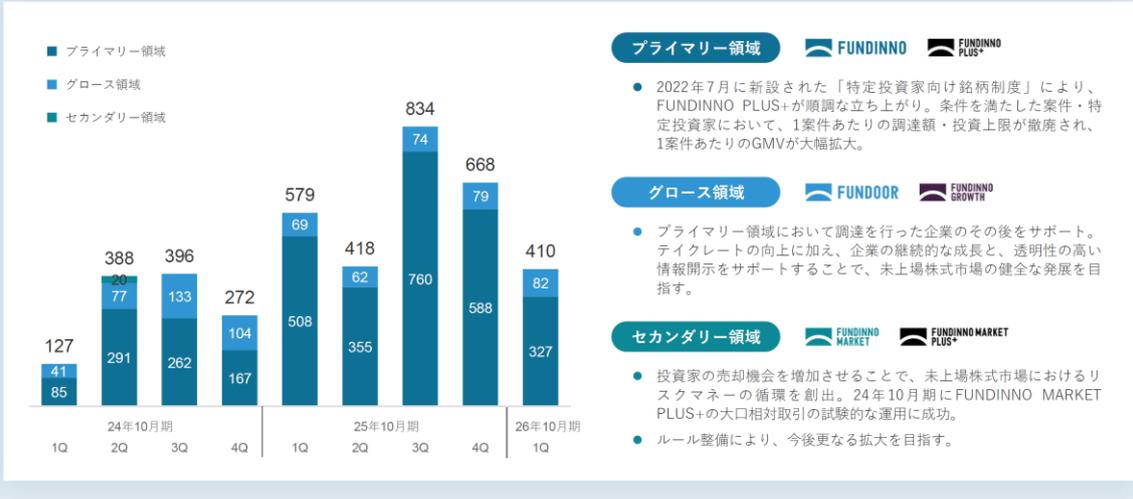
大型案件の計上が後続四半期へシフトし「FUNDINNO PLUS+」の10億円以上の調達に当期1Qは不足。



要因をご説明いたしますと、
 当社では、発行会社様および投資家様のニーズ、
 プロジェクト収益が最大化できるタイミングを鑑み開示を行っており、
 当第1四半期においては、大型案件の計上が後続四半期へシフトいたしました。

前期 第1四半期は、10億円超の大型案件を2件手がけましたが、
 当第1四半期は0件と、大型案件の不足が減収減益の要因となっております。

サービス領域別営業収益推移 (単位:百万円)



プライマリー領域

- 2022年7月に新設された「特定投資家向け銘柄制度」により、FUNDINNO PLUS+が順調な立ち上がり。条件を満たした案件・特定投資家において、1案件あたりの調達額・投資上限が撤廃され、1案件あたりのGMVが大幅拡大。

グロース領域

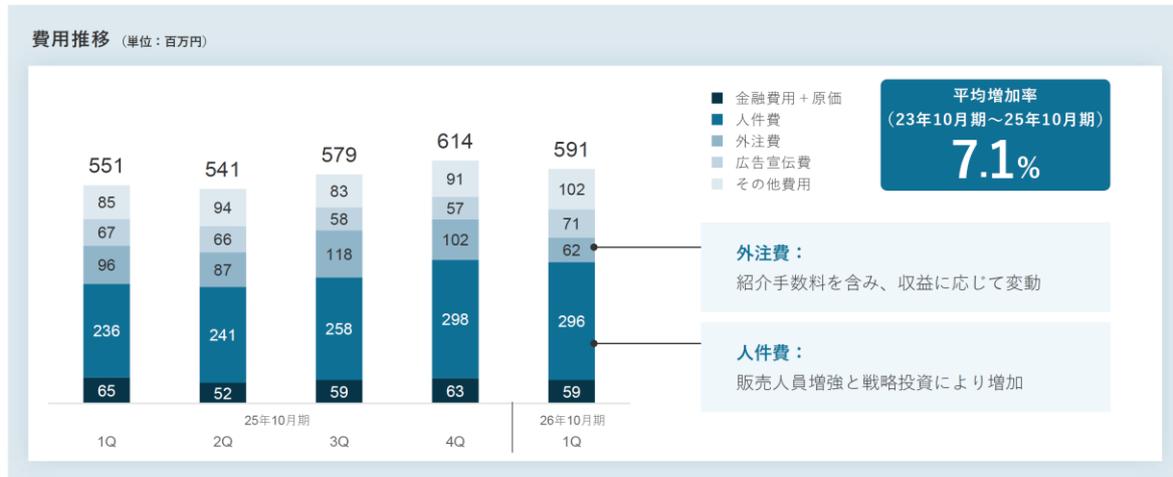
- プライマリー領域において調達を行った企業のその後をサポート。テイクレートの向上に加え、企業の継続的な成長と、透明性の高い情報開示をサポートすることで、未上場株式市場の健全な発展を目指す。

セカンダリー領域

- 投資家の売却機会を増加させることで、未上場株式市場におけるリスクマネーの循環を創出。24年10月期にFUNDINNO MARKET PLUS+の大口相対取引の試験的な運用に成功。
- ルール整備により、今後更なる拡大を目指す。

領域別の営業収益の推移は、こちらをご覧ください。

テクノロジー主導の事業運営により、量的拡大を実現しても営業費用の伸びは限定的。
今後の業績拡大に向けた人材採用も順調に進捗。



続いて営業費用の内訳です。

テクノロジー主導の事業運営により、引き続き、費用は限定的な増加にとどまっております。

また、来期を見据えた人材採用も堅調に進んでおります。

自己資本規制比率を維持し、安定的な財務状況を確保。

2026年3月3日を効力発生日とし、資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金処分を行う。

	(百万円)	25年10月期 (通期)	26年10月期 (1Q)	増減額
流動資産		5,055	5,051	△4
固定資産		371	394	+23
資産合計		5,426	5,446	+19
流動負債		584	409	△174
固定負債		0	0	0
負債合計		584	410	△174
純資産		4,842	5,035	+193
負債・純資産合計		5,426	5,446	+19

BS の状況です。

自己資本規制比率を維持し、安定的な財務基盤となっております。

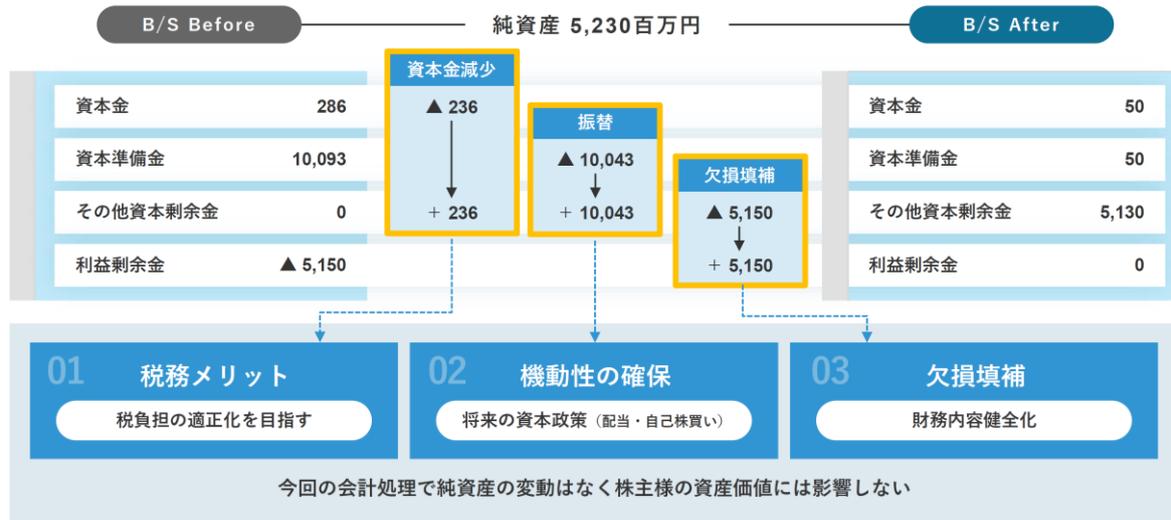
また、当第1四半期には反映されておりませんが

2026年3月3日を効力発生日として

「資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金処分」を行いました。

資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金処分（効力発生日：2026年3月3日）

企業価値向上に向けた財務内容の健全化を図るとともに、将来の資本政策の機動性を確保。



持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現するための『財務戦略上の基盤整備』として実施したものです。

- ・税負担の適正化
- ・将来的な資本政策の機動性の確保
- ・欠損填補による財務内容の健全化が主な目的です。



- 01 ビジネスモデル
- 02 主要KPI
- 03 2026年10月期 第1四半期業績
- 04 **成長戦略の進捗**
- 05 APPENDIX

最後に、成長戦略の進捗について、ご説明いたします。

成長戦略の進捗

当社プラットフォームでのGMV拡大に加え、付加価値向上に繋がるサービス拡張を行い
リスクマネー循環サイクルの構築・持続的な発展を目指す。

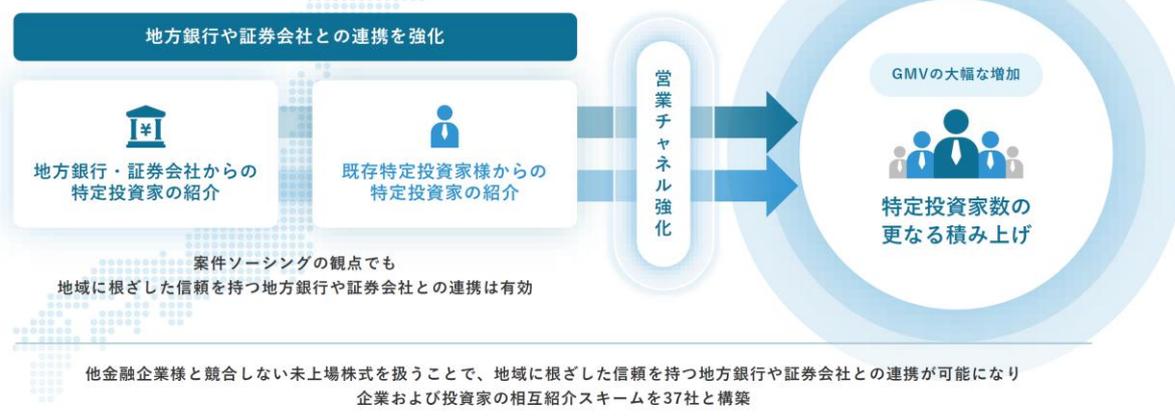


2026年1月30日に開示いたしました
「事業計画及び成長可能性に関する事項」において
6つの成長戦略をお示ししております。

今期及び来期のPLに直接寄与する取り組みの進捗をご説明してまいります。

地方銀行・証券会社 連携先が累計37社に到達。案件ソーシング・投資家ネットワークの最大化を目指す。

《 FUNDINNOのみではアプローチしきれなかった”超富裕層”に対し、業界連携によりチャンネルを拡大 》

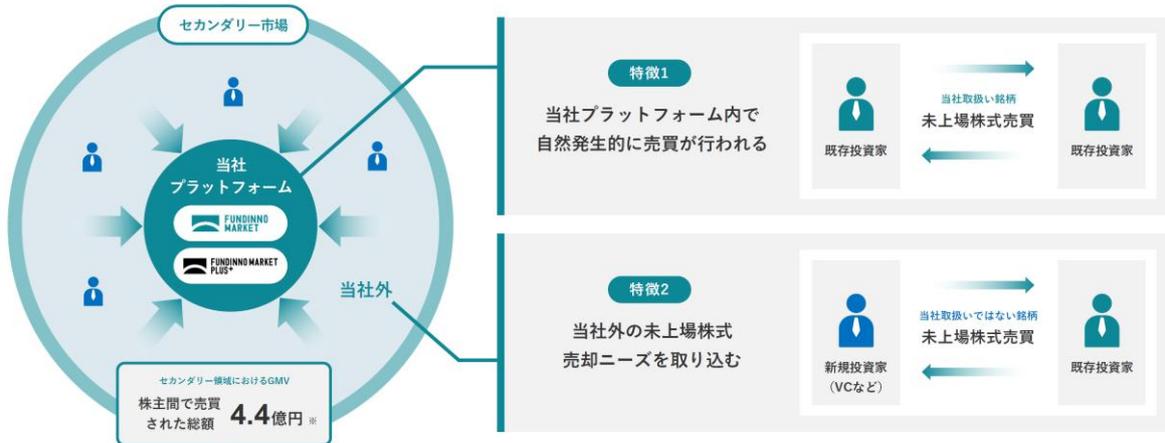


まずは、隣接業界との連携強化です。

地方銀行・証券会社などの連携先が、37社に到達いたしました。

特定投資家様や、地域に根差した企業様をご紹介いただくことで
未上場株式市場の発展、事業規模拡大に繋げてまいります。

未上場株式の流動性促進のためには、セカンダリー強化が必須である。
当社外の未上場株式売却ニーズを取り込むことによる新規投資家の獲得、GMV拡大に繋げるべく体制を構築し、当2Qにおいて、大口セカンダリーの実現が見込まれる。



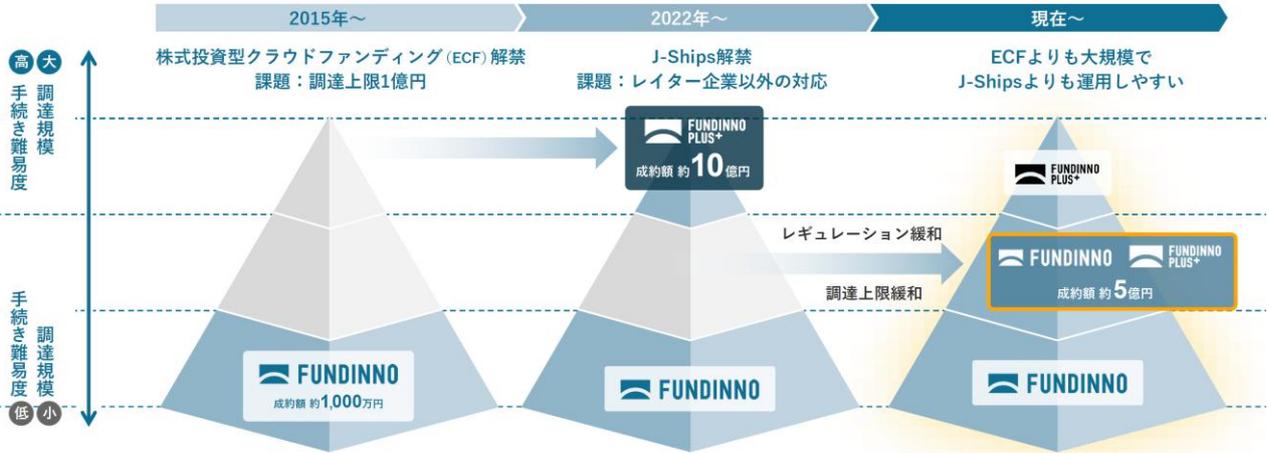
続いて、セカンダリー領域の強化についてです。

未上場株式の流動性促進のためには、
社内外の未上場株式の売却ニーズを取り込み、
マッチングに繋げる必要がございます。

「FUNDINNO PLUS+」の特定投資家様をアセットとし
事業展開に繋げてまいります。

2024年10月期に既に
大口の「FUNDINNO MARKET PLUS+」において、
POCを終えておりますが
当第2四半期においても、実績が見込まれています。

2025年2月、ECFの1案件あたりの調達上限額が5億円未満へ引き上げられる改正金商法が施工。
実務上のハードルである監査報告書提出義務も将来的に緩和される見通しのため、社内体制を強化。
「FUNDINNO」において、規制緩和への対応に今期注力。



我々の今いる未上場株式市場では
相次ぐ規制緩和が行われております。

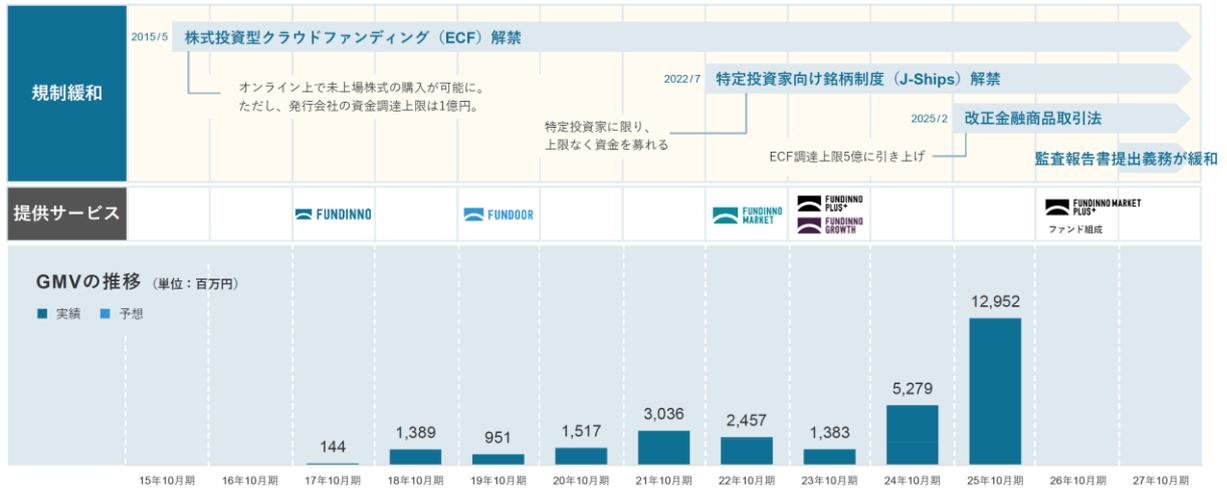
「スタートアップ育成5か年計画」で示されている通り、
次世代の産業を育成するためのスタートアップ企業への資金供給は、
一つの国策としても位置づけられており、
こちらを実現するために規制緩和が行われています。

昨今のところですと、「FUNDINNO」のECFの領域において、
資金調達上限が1億円から5億円に引き上げられました。

一方、実務上は1億円超の調達を行う際の手続き難易度が
依然として高い状況です。

そんな中、手続きが将来的に緩和される見通しも出ていることから
社内体制を強化しております。

規制緩和の情報を早期に把握しビジネスに繋げ、GMVが拡大。
今後も規制緩和への対応を事業拡大と両軸で推進。



各種規制緩和が発生する直前から我々も情報を掴んで、いち早くサービスに反映することこそが、GMVの拡大に向けた、一つの重要な施策であると考えております。

TOPICS

リリース日	カテゴリー	タイトル	詳細
2026年2月26日	FUNDINNO PLUS+	FUNDINNO PLUS+を活用した株式会社レクメドが東証グロース市場へ上場承認「J-Ships」による資金調達、企業の成長とExitを強力にバックアップ。	当社HP参照
2026年2月25日	業務連携	アリストグラ・アドバイザーズと業務連携 ～未上場企業の資金調達後に、国内外のネットワークを活かした出口戦略の実現を支援～	当社HP参照
2026年2月24日	FUNDINNO PLUS+	【日本初】J-Ships制度利用企業として初の上場事例が誕生。 FUNDINNO支援先のイノバセルが東証グロース市場へ新規上場	P4 当社HP参照
2026年1月26日	業務連携	GRCSと業務連携、未上場企業のガバナンス・コンプライアンス強化を支援 ～スタートアップの成長を「攻めと守り」の両面から支える経営基盤の構築へ～	当社HP参照
2026年1月6日	FUNDINNO	「FUNDINNO」において5億円未満の「大型案件」の取扱開始について ～2025年2月の改正金商法施行に伴い、市場拡大を背景としたGMVの飛躍的成長を目指す取り組み～	P27 当社HP参照
2026年1月5日	資本政策	資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金処分に関するお知らせ	P22 当社HP参照
2025年12月24日	新規事業	「ファンドを通じた投資」の実現へ ～「第二種金融商品取引業」および「投資運用業」の登録準備プロジェクトの推進を強化～	当社HP参照
2025年12月19日	事業連携	FUNDINNO×フィリップ証券 福岡証券取引所に既上場および上場準備企業への新たな資金調達方法の支援	当社HP参照
2025年12月16日	事業連携	GMV拡大に向けた、地方銀行・証券会社との連携を強化し、累計37社に到達。 ～案件ソーシングおよび投資家ネットワークの最大化を目指す～	P25 当社HP参照

2025年10月期 通期決算発表以降のリリースはこちらに記載しておりますので、ご参照ください。



- 01 ビジネスモデル
- 02 主要KPI
- 03 2026年10月期 第1四半期業績
- 04 成長戦略の進捗
- 05 **APPENDIX**

株主・投資家の皆さまに向けて タイムリーかつ解りやすい 情報発信に努めております

IR note



決算情報や適時開示
の補足説明、
Monthly Reportなど
を掲載しております

IR X



適時開示、
各種IRイベント
などのご案内を
しております

当社の取り組みにつきましては、
「IR note マガジン」および、「IR 公式X」でも情報発信を行っております。

皆さまからのご質問を元にした解説記事や、
開示資料だけではお伝えしきれなかった情報の補足などを
記事を通じて行っておりますので、ご参照ください。

また、個人投資家向け説明会にも登壇を予定しておりますので
ご参加いただければと思います。

IRスケジュール

2026/3/21
湘南投資勉強会

2026/4/10
岡三証券 個人投資家説明会

2026/6/12
2026年10月期 2Q決算発表

フェアに挑戦できる、未来を創る。

この国のベンチャーマーケットを、よりオープンに、民主的に。
すべての起業家と投資家にとっての、情報・機会の格差をなくし、
“フェアに挑戦できる、未来を創る。”こと、それが私たちのビジョンです。
起業家の挑戦に、多彩な選択肢を提供すること。
そして、投資家の応援を、起業家へと届けること。
志ある人々にとって開かれた未来へ、私たちは変革を続けます。

ビジョンを実現するために

証券、印刷、信託、取引所機能を全て実装した金融プラットフォームは、グローバルマーケットでも完成されていません。
当社は、新たな最先端金融プラットフォームを構築します。
構築したあかつきには、そのモデルをもって世界へ羽ばたきインストールをしていきたいと考えております。

2026年10月期 第1四半期決算説明は以上でございます。

ご視聴いただき、ありがとうございました。

ディスクレーマー



将来見通しに関する注意事項本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

(コメントなし)